

令和5年度 第25回 関東地区 小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 「群馬大会」

探究心を育て、確かな資質・能力を育成する生活科・総合的な学習の時間

笠懸に生き、笠懸を愛する、笠懸っ子の育成
— 他者と関わり合いながら、思いを形にする表現活動の工夫 —



令和5年11月17日（金）
群馬県みどり市立笠懸東小学校

主題「笠懸に生き、笠懸を愛する、笠懸っ子の育成」

サブテーマ 他者と関わり合いながら、思いを形にする表現活動の工夫

本校の教育活動、地域との連携、
歴史、先人達の思い

「人」：先人、地域の人々、友だち、周りの人々
「もの」：施設、環境、状況、様子、資料
「こと」：できごと、歴史、体験活動、実験、学習

質問、見学・体験学習・調べ学習・話し合い活動

先人や地域の人々の思いや願いに気付く、受け止める、理解する、新たに発見する、改めて感じる、誇りに思う、興味をもつ、協力する、体験する、苦労を理解する、思いを受け継ぐ、
「へえ、なるほど、そうなんだ」

自分はどうしたいのか。どうすればよいのか。

「もっと知りたい、調べてみたい」「自分にできる事は何か考えたい」「感謝したい」「よりよくしていきたい」「もっと知らせたい」「発信したい」「お礼を伝えたい」「自慢したい」「思いを大切にしていきたい、受け継いでいきたい」

どう発信するのか。
どうすればよいのか。

よりよい方策を練り合い、試行錯誤しながら、自分の思いを具現化する

1年（生活）「がっこうだいすき」
「じぶんでできるよ かぞくニコニコだいさくせん」

2年（生活）「もっとなかよしまちたんけん」
「かさかけスキスキ大きくせん」

3年

（社）地域の様子、特色、見学、くらしの変化、岩宿博物館見学
→地域への愛着、よさの発見、驚き、他地域との比較、
=よさや魅力を発信
「この町大好き探検隊」

4年

（社）「きょう土に伝わるねがい」
笠懸野を拓く先人達の苦労や思い、
→笠懸にとって特に大切な水だからこそ、思いを受け継ぎ水を大切にしていく。主体的な環境学習や阿左沼清掃、工夫した取組実践
=自らできることを考え実践、発信
「東っ子エコクラブ
阿左美沼見守りたい」

5年

（社）「米作り」
→地域の方、土地改良区の方々の協力、4年時に自分たちが清掃した阿左美沼（農業用水）の水を使っての米作り
=多くの手間・工夫、協力することの大切さ、米作りの工夫感謝、収穫の喜び、発信、発展
「米KOME探検隊」

6年

（社）「歴史学習」
→岩宿博物館との体験学習
三種体験、岩宿人体験、土器作り、土器焼き
=先人達の知恵、協力しながらたくましく生きてきた郷土への誇り、自分達にできること、自らの生き方、お世話になった岩宿博物館をもっと有名にしたい。来館者数を増やしたい。笠懸の魅力を発信し、恩返しをしたい。
「地域の魅力をPR！」

課題との出会い

他者との関わり

学ぶ楽しさ・喜び、
主体的な学び合い、探究

思いを形にする
表現活動の工夫

本校の教育活動の特色

過去【地域の歴史・先人の思い】

○地域に関する学習内容と歴史的背景

- ・6年 日本の歴史を変えた岩宿遺跡
- ・6年 岩宿人の生活
- ・4年 源頼朝による笠懸野の命名
- ・4年 荒地、銅山街道
- ・4年 岡上景能公、岡登用水
- ・4年 笠懸野の開拓、明治時代の開拓
- ・3年 大間々扇状地、むかしのくらし

現在【地域の特色・地域との関わり】 人口が増え、活気ある豊かな地へ

○地域との連携による本校の教育活動（豊かな学びの実現）

- ・全校 「荒神山登山」
- ・123年「町探検」「校外学習」
- ・4年「ごみ拾い」「阿左美沼清掃」「エコムーブ号」「環境学習、みどり市5つのゼロ宣言」
- ・5年「米作り体験学習（田おこし、種まき、苗作り、代かき、田植え、除草、水の管理、稲刈り、乾燥、脱穀）」「米料理学習」
- ・6年「岩宿博物館による体験学習（三種体験一打製石器作り・勾玉作り・アンギン編み、土器作り、土器焼き、石器体験、やり投げ、弓矢体験）」「岩宿文化賞参加」

未来【地域とともに自分も成長】

- ・地域の思いや願い、自分たちへの期待を受け継ぎ、自信と誇りをもって、人生を切り拓き、たくましく生きていく。
- ・探究を通して身に付いた資質を生かしていく。

【児童の実態】
 ○明るく元気である。
 ○何事にも興味をもって活動できる。
 ○自主性を高めることが求められる。

【地域の実態】
 ○自然環境に恵まれている。
 ○歴史的な遺構が多い。
 ○阿左美沼や岡登用水がある。
 ○学校教育に関する理解があり、学校へのサポートも熱心である。

【学校の教育目標】
 ○思いやりのある子ども（優しく）
 ○考えを深める子ども（賢く）
 ○元気な子ども（たくましく）

【保護者の願い】
 ○健康的で安全に過ごせること
 ○豊かな人間関係づくり
 ○確かな学力を身に付ける
 ○自ら考えて行動できる

【生活科の目標】
 具体的な体験や活動を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくために、以下の資質・能力を育成する。

(1) 様々な活動や体験を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさ、それらの関わり等に気付くと共に、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。
 (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができる。
 (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を育てる。

【地域の願い】
 ○地域や歴史を大切にできる子ども
 ○きちんとあいさつができる子ども
 ○周りの人と仲良く関わり合える子ども

【「笠懸に生き、笠懸を愛する、笠懸っ子の育成」で目指す児童の姿】
 低学年「自分の思いや願いをもち、自他のよさを見付けられる子」

【生活科において育成を目指す資質・能力】

内容のまとめ	知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力の基礎	学びに向かう力、人間性等
学校、家庭及び地域の生活に関する内容	(1) 学校での生活は、様々な人や施設と関わっていることが分かる。	(1) 学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考える。	(1) 楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。
	(2) 家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる。	(2) 家庭における家族のことや自分でできることなどについて考える。	(2) 自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活しようとする。
	(3) 自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる。	(3) 地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える。	(3) 地域の場所やそこで生活したり働いていたりにしている人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。
身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	(4) 身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることが分かる。	(4) 公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりする。	(4) 公共物や公共施設を大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。
	(5) 自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付く。	(5) 自然や行事の違いや特徴を見付ける。	(5) 自然や季節の変化を取り入れ、自分の生活を楽しくしようとする。
	(6) 遊びのおもしろさや自然の不思議さに気付く。	(6) 遊びや遊びに使う物を工夫して作る。	(6) みんなと楽しみながら遊びを創りだそうとする。
	(7) 動植物は、生命をもっていることや成長していることに気付く。	(7) 動植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかける。	(7) 生き物への親しみをもち大切にしようとする。
自分自身の生活や成長に関する内容	(8) 身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる。	(8) 伝えたいことや伝える方法を選ぶ。	(8) 進んで触れあい交流しようとする。
	(9) 自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる。	(9) 自分のことや支えてくれた人々について考える。	(9) これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いを持って、意欲的に生活しようとする。

【各教科等との関連】

国語	算数	音楽	図画工作	体育	特別教科 道徳	特別活動
・相手に伝わるように順序よく話す力 ・必要な事柄を集めたり確かめたりする力など	・数の概念を持ち、量の大きさを理解する力 ・個数等に目し、事象の特徴を捉える力 など	・楽しく音楽に関わり、協働して楽しむ力 ・音楽を通して生活を明るくする態度など	・材料や用具を使い、創造的に作り出す力 ・形や色などに関わり、生活を楽しくする態度など	・基本的な生活習慣を身に付ける。 ・心身ともに健康で安全な生活態度の形成 など	・主体的な活動をする中で道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を身に付けるなど	・集団行動する力 ・話し合う力 ・友だちとの関係を築く力 など

【地域との連携】

○地域の人々（交通指導委員、消防団員、区長）
○公共機関とそこで働く人々（公民館、図書館、役場、交番、消防署、郵便局）
○町で働く人とその施設（食堂、菓子店、スーパーマーケット、商店、ガソリンスタンド、工事関係、病院）
○幼児教育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）

【児童の実態】
 ○明るく元気である。
 ○何事にも興味をもって活動できる。
 ○自主性を高めることが求められる。

【学校の教育目標】
 ○思いやりのある子ども（優しく）
 ○考えを深める子ども（賢く）
 ○元気な子ども（たくましく）

【保護者の願い】
 ○健康的で安全に過ごせること
 ○豊かな人間関係づくり
 ○確かな学力を身に付ける
 ○自ら考えて行動できる

【地域の実態】
 ○自然環境に恵まれている
 ○歴史的な遺構が多い。
 ○阿左美沼や岡登用水がある。
 ○学校教育に関する理解があり、学校へのサポートも熱心である。

【総合的な学習の時間の目標】
 探究的な見方・考え方を働かせ、笠懸の人・もの・ことに関わる横断的・総合的な学習を行うことを通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の在り方や生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。
 (1) 笠懸のまちの人・もの・ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けると共に、笠懸地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
 (2) 笠懸のまちの人・もの・ことの中から学習課題を見だし、その解決に向けて得た情報を基に考える力を身に付けると共に、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
 (3) 笠懸のまちの人・もの・ことに関わる探究的な学習に主体的・協働的に取り組むと共に、互いのよさを生かしながら自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を養う。

【地域の願い】
 ○地域や歴史を大切にできる子ども
 ○きちんとあいさつができる子ども
 ○周りの人と仲良く関わり合える子ども

【学校として定める探究課題と、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力】

学年		3年	4年	5年	6年	
探究課題		自分たちの住んでいる地域のよりよい町づくり	身近な自然環境である阿左美沼とそこに起きている環境問題	米作り体験を通して感じた生産者の思いと未来の食料への課題	地域の歴史ある岩宿遺跡と地域社会の再生	
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能	知識の概念化 地域にあるものや、それに関わる人々の思いを理解することができる。	地域の環境に目を向け、それを守ろうとする人々の思いや工夫を理解することができる。	地域の農業に目を向け、よさと課題、生産者の思いを理解することができる。	郷土を開いた人々の思いを学び、地域の未来像や自分たちの生活との関わりを理解することができる。	
	探究のよさの理解	探究の過程で、情報収集の手順を知り、相手のことを考えながらいろいろな立場の人々と適切に関わり、情報を集めることができる。	学習対象と自分たちの生活がつながっていると気づき、できることをしていこうと感じたことは、探究的に学んだ成果であると気付くことができる。	課題解決のために、資料やICTを活用し、目的に合った方法で必要な情報を収集することができる。	自分なりの課題意識やそれに基づき考えて実践したことは、探究的に学んだ成果であることに気付くことができる。	
	思考力、判断力、表現力、等	課題の設定	学校の特性や地域との関わりを通して関心のある課題をもち、解決の方法を考えることができる。	活動の意図や目的を明確にして自分で課題を見だし、解決方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。	目的に応じて対象を決め、自分たちの身近なところから情報を収集することができる。	目的に応じて手段を選択し、情報を収集したり、必要な情報を選んだりすることができる。
		情報の収集	問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり数量などで客観的に比較したりして、特徴を見付けることができる。	視点や目的に応じて、相手意識や目的意識をもって表現方法を選択し、工夫してまとめ、表現することができる。	視点を明確にして問題状況における事実や関係と、整理した情報を関連付けたり、多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けることができる。	
		整理・分析	相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現することができる。	課題意識をもって、課題解決に向けて、友達と力を合わせて活動したり、他者の立場を尊重したりしながら学び合おうとする。		
	まとめ表現	課題解決に向け、友達の意見を比べたり取り入れたりしながら、協力して学び合おうとする。	自分のよさや成長、自分にできることに気付くと共に、自分と違う意見や考えがあることに気づき、そのよさを見付けるようする。	自分の特徴やよさを理解し、自己有用感を持ち、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しながら、探究的な活動に取り組もうとする。		
	学びに向かう力、人間性等	探究的な活動を通して、地域との関わりの中で、自分でできることを見付け、行動しようとする。	探究的な活動を通して、進んで地域の問題の解決に取り組もうとする。			
社会参画						

【学習活動】
 ・地域の実態、児童の実態をふまえ、探究課題を設定する。
 ・児童の思いをもとにして、地域の人、もの、ことを生かした学習活動を行う。
 ・探究の結果を表現する時間と場の確保をする。
 ・ICTを活用することで、時間的・空間的制約を受けずに地域の人とつながり活動を充実する。

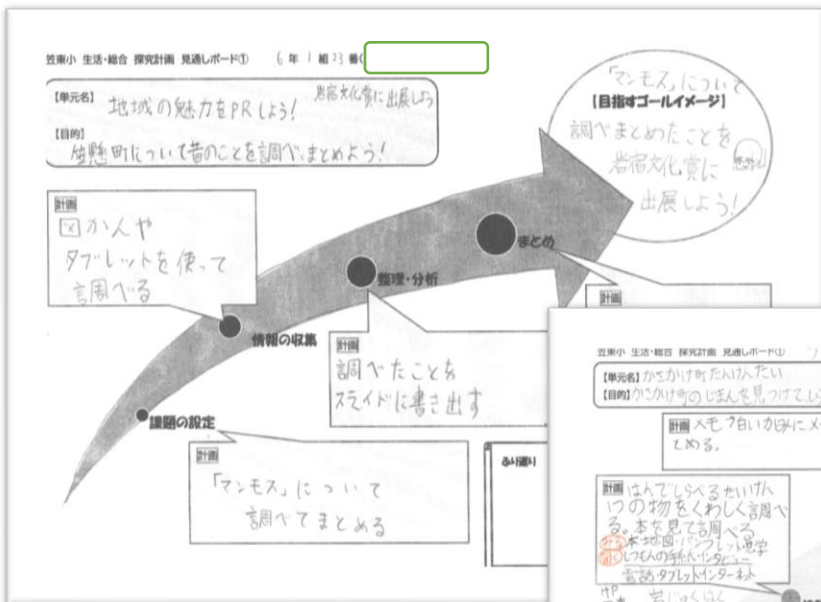
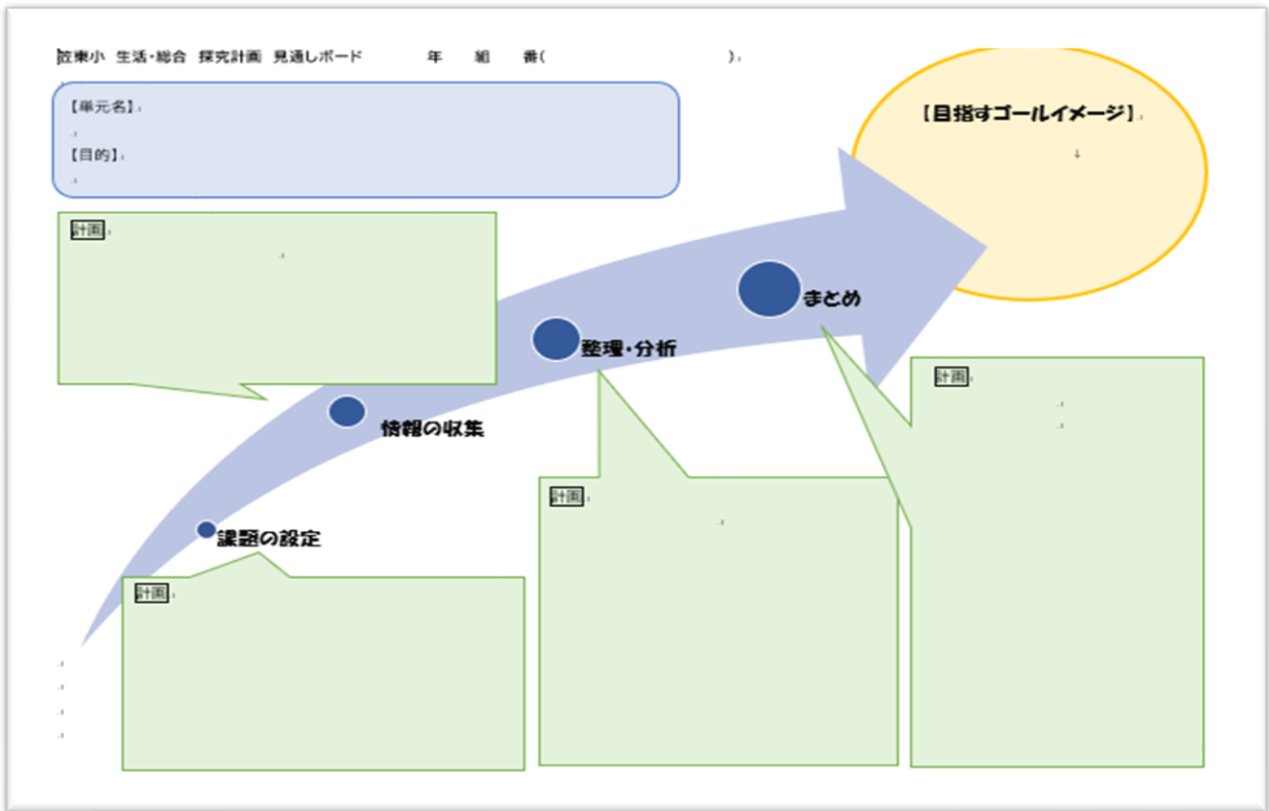
【指導方法】
 ・児童が主体的に活動できるよう、明確な課題を設定すると共に、見通しをもたせる。
 ・問題意識の継続ができるよう、探究のサイクルを一段階上げるために、地域の人や専門家からアドバイスをもらう場面を設定する。
 ・目的や意図に応じて思考ツールを活用させる。
 ・体験活動を重視する。
 ・各教科との関連を意識した指導を行う。

【指導体制】
 ・生活科との連携を図り、指導の継続性をもつ。
 ・地域の組織との連絡を取れる地域担当者を配置し、必要な情報をすぐに共有できるようにする。
 ・全職員で地域での活動ができやすいサポート体制を組織する。
 ・全学年の互見授業の設定により、授業力向上を図る。

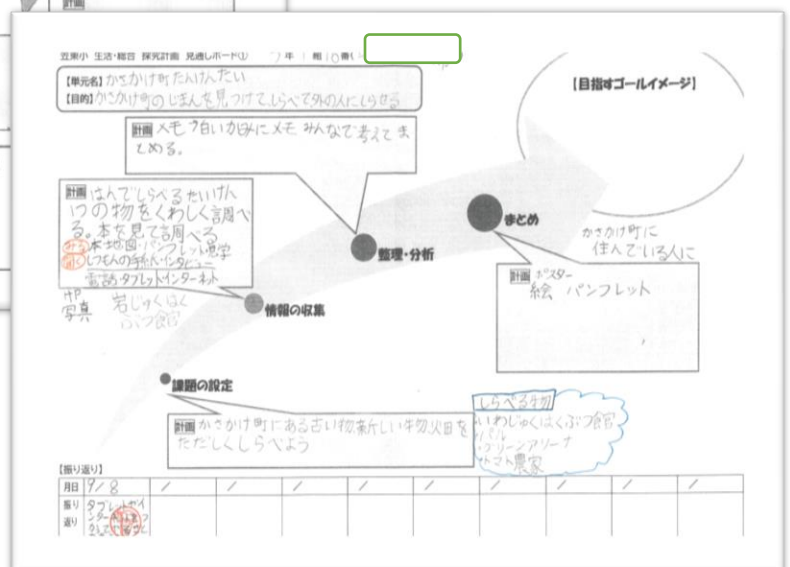
【学習評価】
 ・思考ツール、ノート等を基に個人内評価を重視する。
 ・成果物、板書記録により、指導の評価、改善を図る。
 ・学年部会により、目指す資質能力と授業の実際との確認を行いながら単元計画の見直しを行いながら進める。

2 見通しボード

児童と教師が、ゴールまでの授業の見通しを可視化し、共有するための羅針盤。児童の思いをもとに授業開きの際に作成し、探究サイクルごとに見直し・修正を行っていく。



(6年)



(3年)

3 振り返りシート

生活科も、総合的な学習も授業の終わりに、振り返りを行っていく。振り返りを行うことで、これまでの学びを想起し、できるようになったことや次の時間への課題を意識することができるため、授業につながりが生まれると考える。

(2年)

生活科 ふりかえりカード 2年 組 ()		
日にち	思ったこと、つぎにやりたいことなど	◎ よくできた ○ できた △ もう少し
10/5	① もんのところをいはいまちがえちた。	◎
10/7	② ストリートビューでみちをしるべられた。	○
10/10	③ つぎは、もっとわかったことをやってみたい。	○
10/20	④ しんはるやりかたや大きくするほうほうがわかた。	◎
10/26	⑤ きやるときはも、どのがのやつをと、はりやてみたいでず。	○

生活科 ふりかえりカード 2年 組 ()		
日にち	思ったこと、つぎにやりたいことなど	◎ よくできた ○ できた △ もう少し
10/5	① もんをやる時、しん前のみいを押し	◎
10/7	② ストリートビューをつかて、アクリルがえいしてうまくてた。	○
10/10	③ からいと思ち	○
10/20	④ つぎは、ちんとして、アクリルを見れる	△
10/26	⑤ ようして、今日そなにまじめ、いかにいかに	○
10/26	⑥ シムボードにしんのはりかたが	◎
10/26	⑦ シムボードにしんのはりかたが	◎
10/26	⑧ シムボードにしんのはりかたが	◎
10/26	⑨ シムボードにしんのはりかたが	◎
10/26	⑩ シムボードにしんのはりかたが	◎

生活科 ふりかえりカード 2年 組 ()		
日にち	思ったこと、つぎにやりたいことなど	◎ よくできた ○ できた △ もう少し
10/5	① もんが何回もつが、あつたので、つかないように	◎
10/7	② ストリートビューでみちをと、もだちに分かりやすく	◎
10/10	③ おしえてあげる。	○
10/20	④ 町たん人にいったとき、どのがをとるとき	◎
10/26	⑤ おいところとして、したので、つぎをとるときは、ちかいところ、とれるようにする。	○
10/26	⑥ シムボードにしんをはりつけ、れるようになった。うごかして、しま、たから、つぎは、うごかさないようにする。	◎

生活科 ふりかえりカード 2年 組 ()		
日にち	思ったこと、つぎにやりたいことなど	◎ よくできた ○ できた △ もう少し
10/5	① もんをやる時、しん前のみいを押し	◎
10/7	② ストリートビューをつかて、アクリルがえいしてうまくてた。	○
10/10	③ からいと思ち	○
10/20	④ つぎは、ちんとして、アクリルを見れる	△
10/26	⑤ ようして、今日そなにまじめ、いかにいかに	○
10/26	⑥ シムボードにしんのはりかたが	◎
10/26	⑦ シムボードにしんのはりかたが	◎
10/26	⑧ シムボードにしんのはりかたが	◎
10/26	⑨ シムボードにしんのはりかたが	◎
10/26	⑩ シムボードにしんのはりかたが	◎

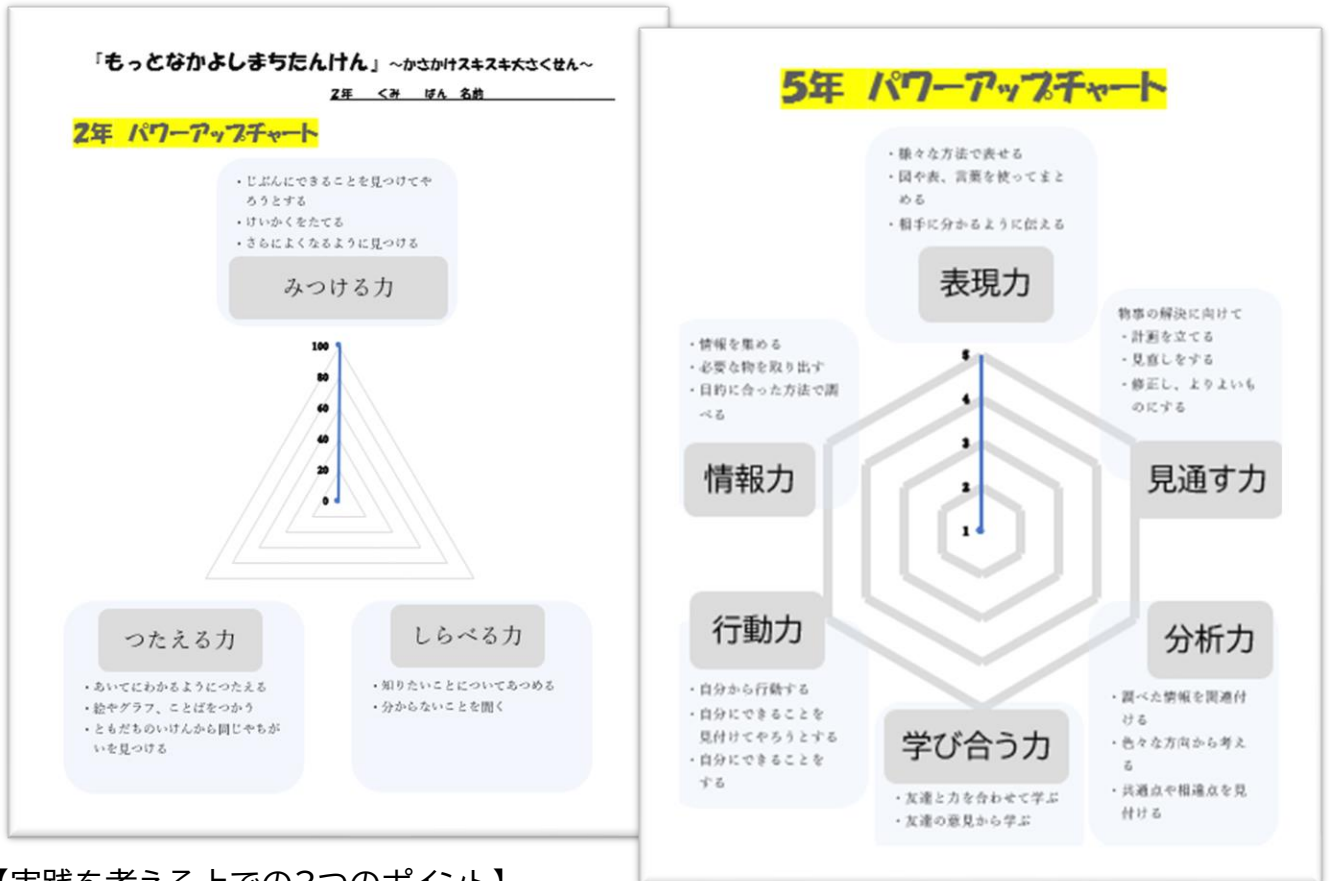
※令和4年度は「振り返りカード」として使用。令和5年度から「振り返りシート」に変更。

4 評価レーダーチャート(令和5年度の重点取組)

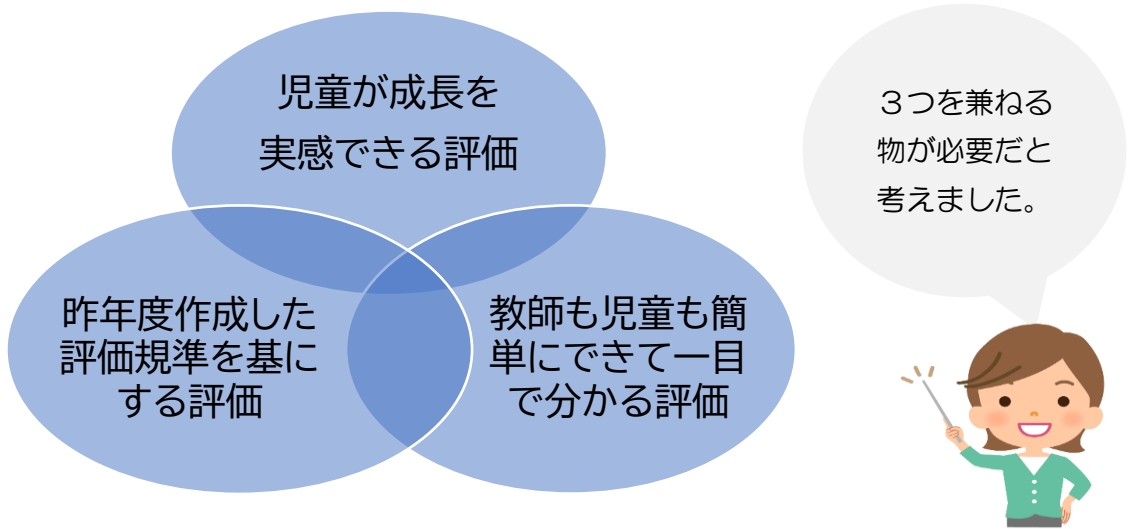
児童が自分自身の学びを実感するために、単元や探究サイクルの始めや終わりに行っていきます。

評価の際には、友達や教師の他者評価、地域や保護者などの外部評価も取り入れて行うことで、主観だけに拠らず客観的な資料となり、より児童が成長の実感を持った評価につながると考えました。

自己評価チャート



【実践を考える上での3つのポイント】



具体的な取組方法について、企画委員会で話し合い、次のように決めていきました。

レーダーチャートを使って自己評価。項目は、評価規準を基に学年で決定。児童の意欲を引き出すような項目を作ってください。チャートの数も学年の発達段階に応じて決定していく。

自分力チャート(案)

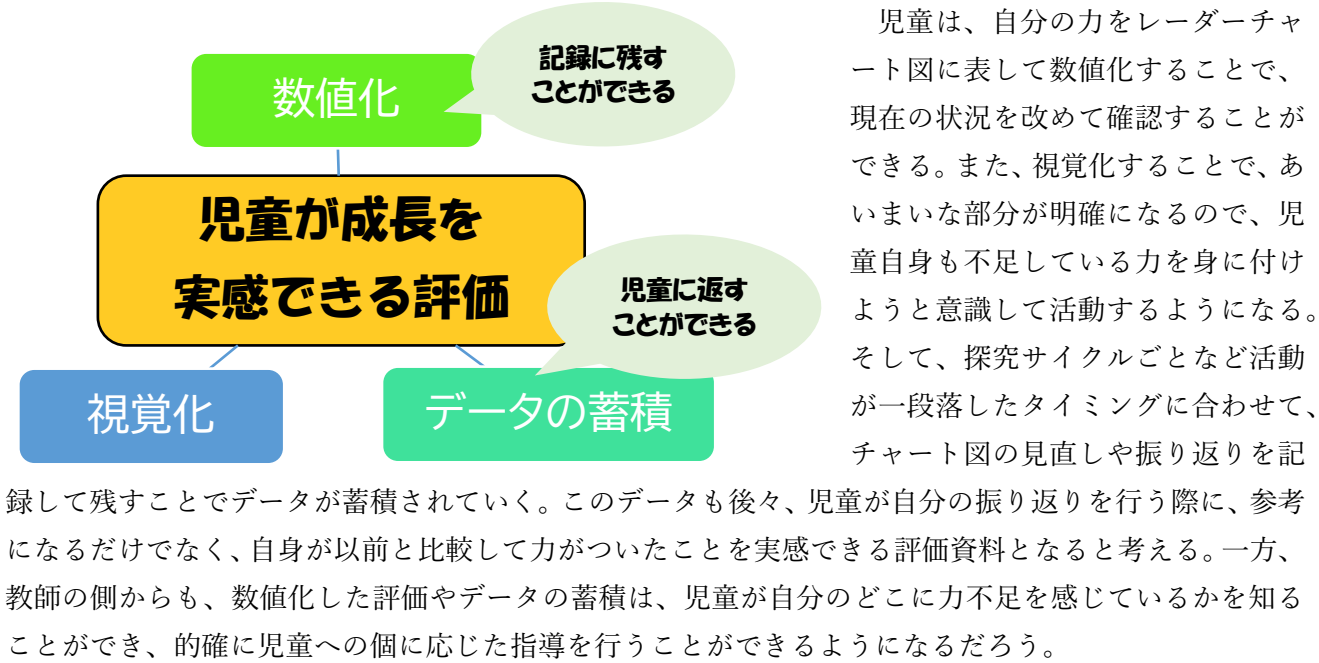
学習の始動時と、学期ごと、探求のサイクルが一回りしたタイミング等、年に3~4回程度の間隔で実施。

振り返りシート

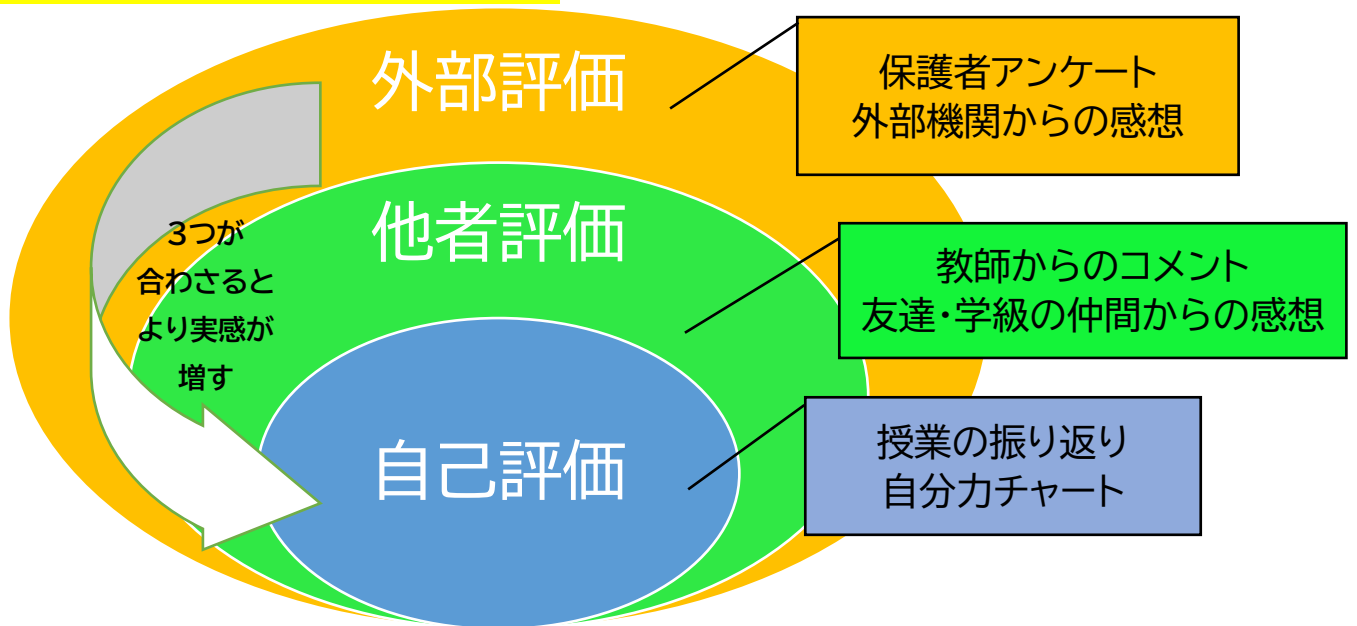
5/29			

【自己評価チャート】と同時に、振り返りシートで文章による自己の振り返りも行っていく。また、これを継続して重ねていく。

用紙には、日付用の縦線と罫線のみ。児童によって書ける文量が異なるので、制限を設けずに作ります。端には、先生の確認欄を設けます。



評価の拠り所になる部



評価を行っていく上でその拠り所となるのは、自己評価を裏付ける客観的な評価と考えます。実際には、自己評価を行う際に一緒に活動していた仲間と行い、その中で仲間同士お互いに来ていたところやもう一歩力が及ばなかったところなどをアドバイスすることで、自身の評価に自信が持てたり見直しを行うきっかけになったりできるだろう。さらに、保護者のアンケートや活動の中で関わった外部の方からのコメント等をももらうことで、より実感を持った自己評価になると考えた。



笠懸東小 単元構想図

【目指す児童像】
他者と関わりながら、
思いを形にできる児童

思いを<形>にする



【ゴールイメージ】
<児童の思い・願い>
知らせたい・伝えたい

【表現活動の工夫】

<表現・発信>

ポスター・パンフレット・
動画・ホームページ・
子ども会議

<ICT活用>

Google
ジャムボード・
マップ・スライド・
フォームの
Webアンケート

<思考ツール

・その他>

Yチャート・Tチャート
KJ法・ボーンズ・
コンセプトマップ・
座標軸・
ワークシート・
白地図・
付箋紙

探究課題を振り
返って
初めの思いは？

総 まとめる



生 ふいかえる

単元を通して
何に気付
いた？
初めの思い
や願いは？

新たな
探究課題の設定
→情報の収集
→整理分析
→まとめ・表現

総 追究する②
いかす・広げる

生 はたらき
かける②

②めあて・新たな
気付きから学習対
象と関わる→伝え
合う→振り返る

探究課題の設定→
情報の収集→
整理分析→
まとめ・表現

総 追究する①
過程

生 はたらき
かける①

<思い>をつなぐ

【他者との関わり】

- 地域の人
- 保護者
- 専門家



- 見学
- 体験
- 発表



探究課題の設定
追究の見通しを
立てる

①めあて・学習対象
と関わる→伝え合う
→振り返る



総 つかむ

学習対象に
対して
思いや願い
をもつ

思いを
もつ
総 出会う

生 出会う

主体的・対話的で
深い学びの実現ための

【出会うの演出】

実体験

写真・動画

実物

6 令和4年度 生活・総合カレンダー

生活科は重点単位に関する学習の活動、総合的な学習は1年間を通じた活動を、時系列に写真と言葉で表して可視化した。このカレンダーを通して、前年度のものから今年度の見通しを持ち、今年度のは当該学年の児童自身の振り返りになるとともに、これを全学年で行うことにより、学校全体の系統的なつながりも意識されるようになる。

第1学年

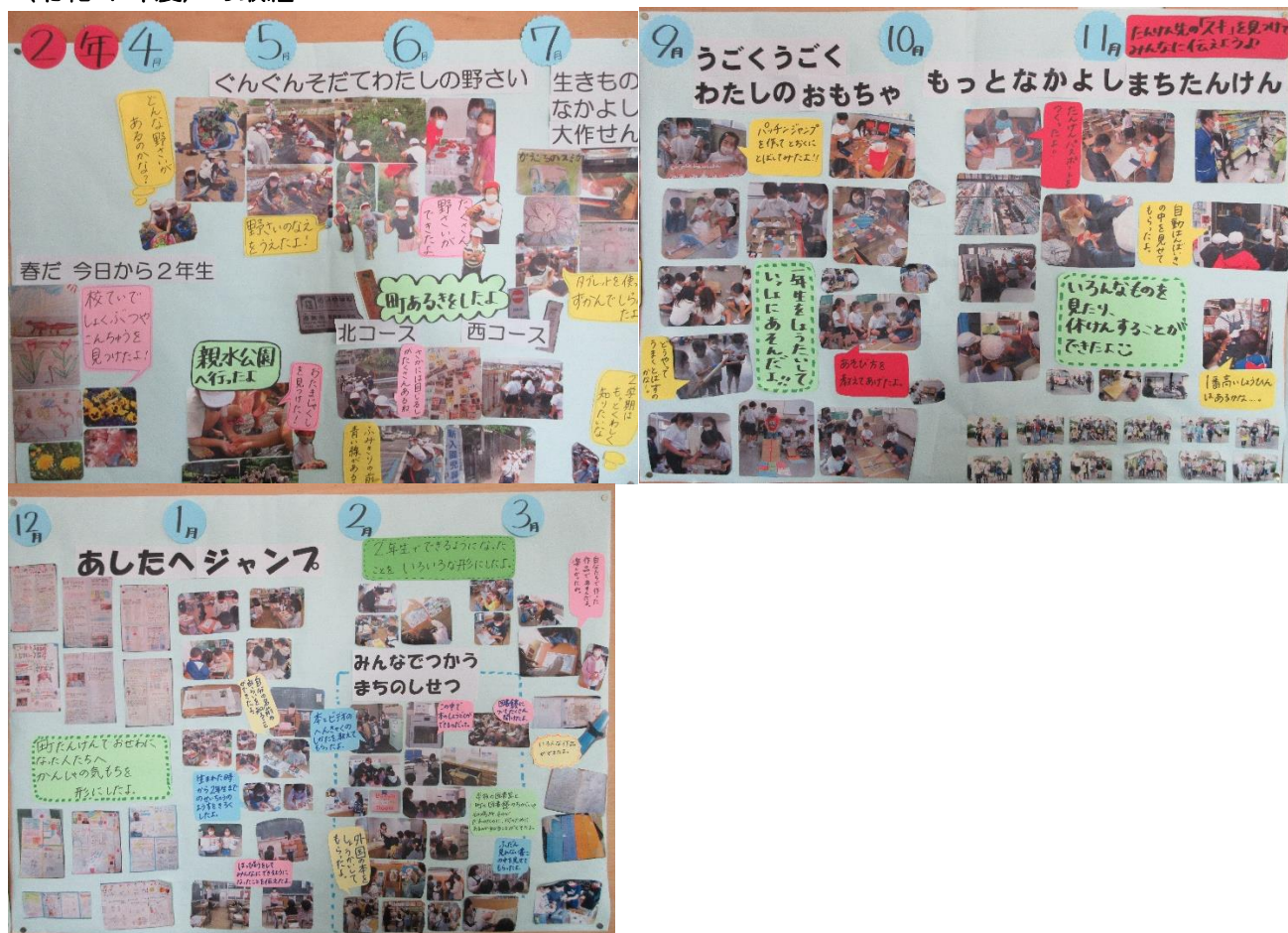
〈令和4年度〉の取組



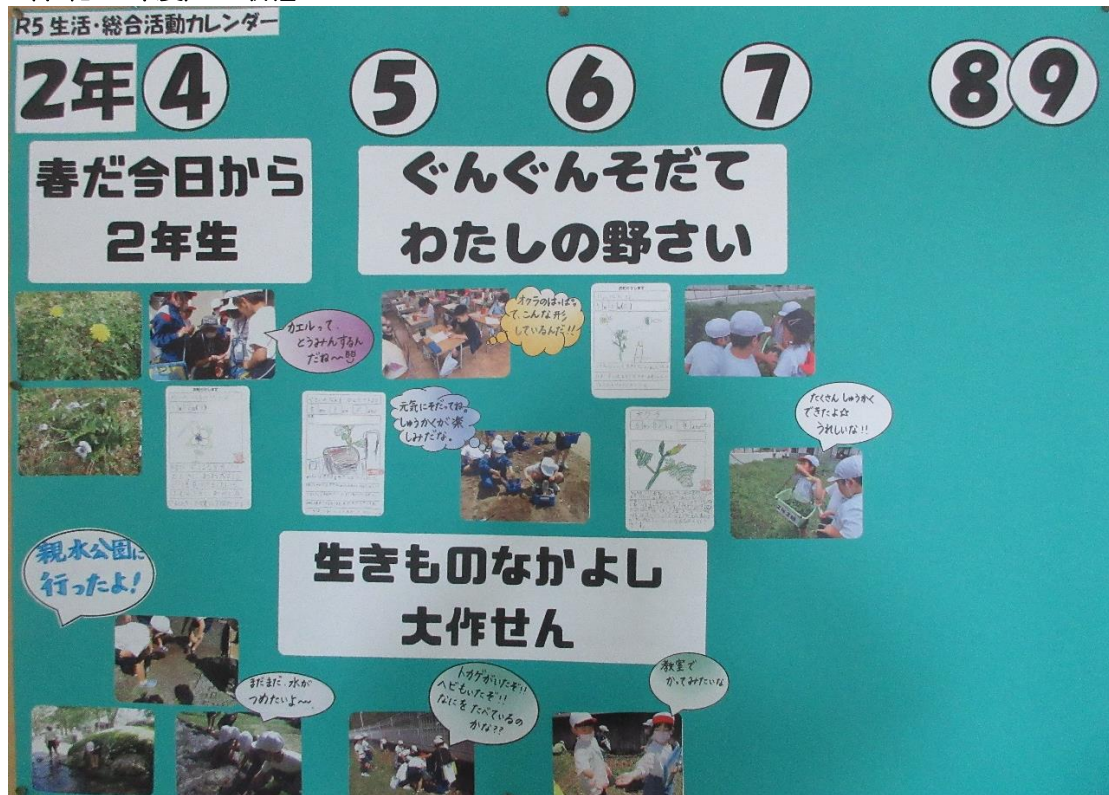
〈令和5年度〉の取組



第2学年
 〈令和4年度〉の取組



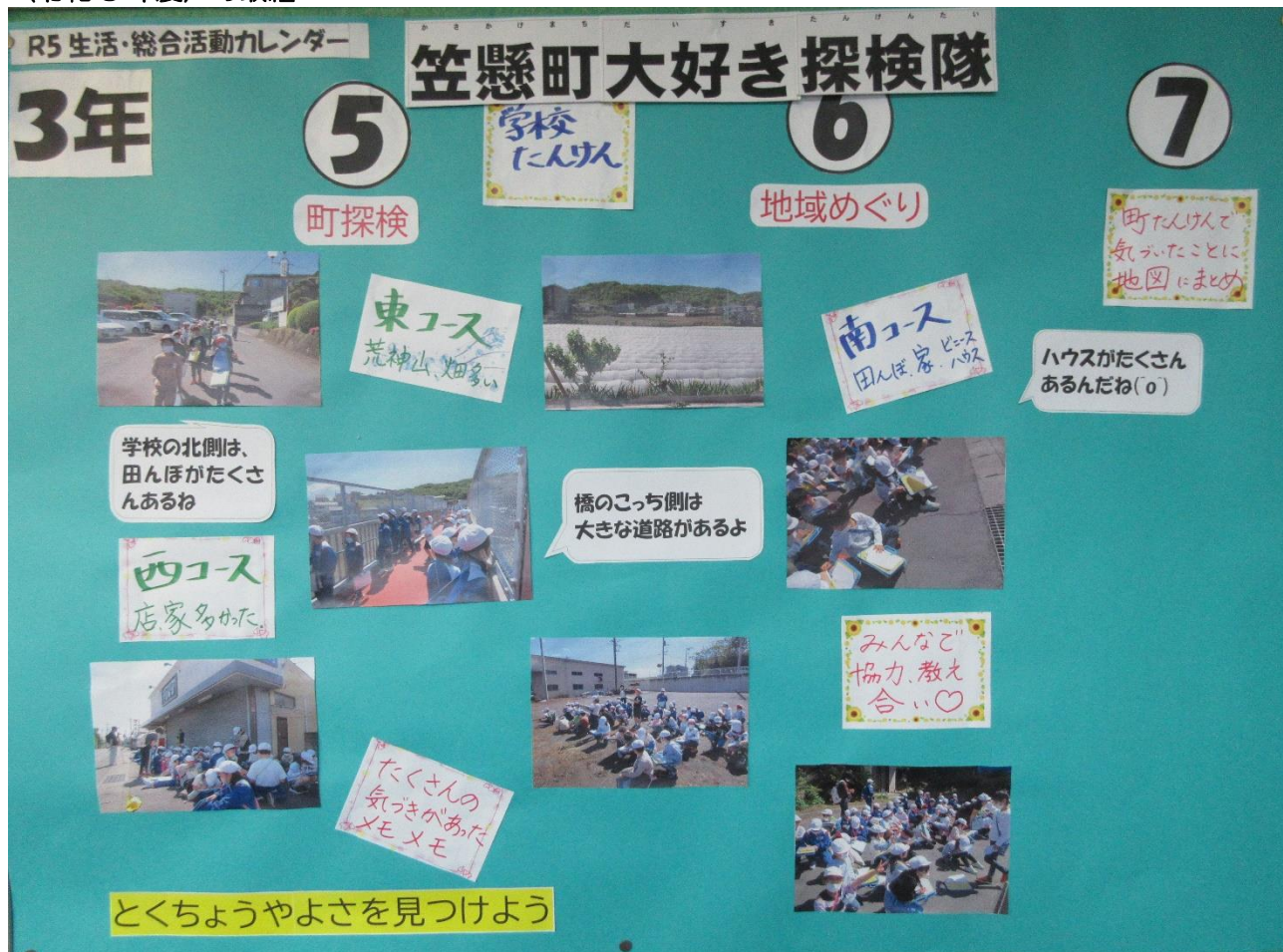
〈令和5年度〉の取組



第3学年
 〈令和4年度〉の取組



〈令和5年度〉の取組



第4学年
〈令和4年度〉の取組



〈令和5年度〉の取組



第5学年
 〈令和4年度〉の取組



〈令和5年度〉の取組



第6学年
 〈令和4年度〉の取組



〈令和5年度〉の取組



◆思考スキルの学年別目標

資料1

〈6つの思考スキルの学年別目標〉

思考スキル	定義	1年	2年	3年	4,5年	6年
比較する 	複数の事象の相違点や共通点を見つけ出す。	身の回りのものの同じと違いを見つける。	自分が体験しなければわからないこと(視覚情報以外)から視点を見つける。	多様な視点で比べる。	意図や目的に応じて比べる。	今までの学習をもとに「比較する」思考スキルについて説明をする。
分類する 	物事をいくつかのまとまりに区別する。	仲間分けごっこを通して、複数の視点に気づく。	自分が体験しなければわからないこと(視覚情報以外)から視点を見つける。	意味を持って分ける。	意図や目的に応じて分類する。(KJ法などを組み合わせて)	今までの学習をもとに「分類する」思考スキルについて説明をする。
多面的にみる 	視点や立場を変えてみる。	複数の視点から情報を集める。	自分が体験しなければわからないこと(視覚情報以外)から情報を集める。	複数の視点から根拠を提示する。	意図や目的に応じて多面的にみる。	今までの学習をもとに「多面的にみる」思考スキルについて説明をする。
関連づける 	既習事項や経験と事柄を結びつける。	ことばとことばにつながりを見つける。	自分が体験しなければわからないことに加えて、ことばとことばにつながりを見つける。	意味をもって、ことばとことばにつながりを見つける。	図や目的に応じて、ことばとことばにつながりを見つける。	今までの学習をもとに「関連づける」思考スキルについて説明をする。
構造化する 	複数の事柄の関係を構成する。	事柄に対する理由を見つける。	自分が体験しなければわからないこと(視覚情報以外)から情報を集める。	調べてみてわかったことをもとに、主張を組み立てる。	仮の主張をもとに、集めた情報を取捨選択する。	今までの学習をもとに「構造化する」思考スキルについて説明をする。
評価する 	物事の是非、善悪等を指摘し、自分の意見を述べる。	めあてに対して、学習の取り組み方を振り返る。	学習を振り返り、分かったことと疑問点を整理する。	判断した結果を理由と合わせて述べる。	判断した結果を基に、提案をすることができる。	今までの学習をもとに「評価する」思考スキルについて説明をする。

「思考ツール 関大初等部式思考力育成法〈実践編〉p.10,17,」(関西大学初等部:著、さくら社、2013)

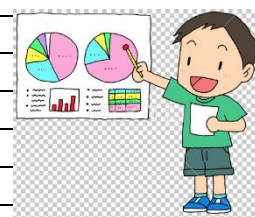
◆学年別の授業デザイン

〈授業デザインの枠組み〉

流れ	活動
導入	1. 授業で取り組む活動のイメージの共有化を図る。 →写真を見る、意見交換をする、操作活動をする等 2. めあてを板書する。 3. ルーブリックを作る。
展開	4. 個の思考活動(シンキングツールを使う) 5. グループでの思考活動(意見交換)
評価	6. 全体で意見交換をする。 よく考えることができる、問題点などを出し合い、整理する。 7. 振り返りを書く。

授業の展開 参考資料

探究サイクル	事例番号	事例内容
課題の設定	事例①	体験活動から課題を設定する
	事例②	資料を比較して課題を設定する
	事例③	リハーサルを通して課題を設定する
	事例④	グラフの推移を予測して課題を設定する
	事例⑤	ブレインストーミングで課題を設定する
	事例⑥	KJ法的な手法で課題を設定する
情報の収集	事例①	アンケート調査で情報を収集する
	事例②	フリップボードで情報を収集する
	事例③	街頭インタビューで不特定多数から情報を収集する
	事例④	個人インタビューで情報を収集する
	事例⑤	電話で情報を収集する
	事例⑥	図書館や図書室で情報を収集する
	事例⑦	インターネットで情報を収集する
	事例⑧	WEB アンケート作成ツールを活用して情報を収集する
	事例⑨	観察・実験を通して必要な情報を収集する
	事例⑩	ファクシミリ(FAX)で情報を収集する
	事例⑪	電子メールで情報を収集する
	事例⑫	手紙で情報を収集する
	事例⑬	配布物から情報を収集する
	事例⑭	イベント・講演会に参加して情報を収集する
	事例⑮	リモートインタビューから情報を収集する
	事例⑯	学級が学年など集団で情報を集積し、共有する
	事例⑰	形式をそろえて情報を集積する
整理・分析	事例①	地図を用いて整理・分析する
	事例②	グラフ化して整理・分析する
	事例③	統計的手法を用いて整理・分析する
	事例④	KJ法的な手法を用いて整理・分析する
	事例⑤	コンセプトマップを用いて整理・分析する
	事例⑥	ベン図を用いて整理・分析する
	事例⑦	ランキング表を用いて整理・分析する
	事例⑧	ロジックツリーを用いて構造化しながら整理・分析する
	事例⑨	座標軸を用いて整理・分析する
	事例⑩	クラゲチャートを用いて整理・分析する
	事例⑪	KWL シートを用いて整理・分析する
	事例⑫	ピラミッドチャートを用いて具体化(個別化、分解)しながら整理・分析する
	事例⑬	ピラミッドチャートを用いて抽象化(一般化、統合)しながら整理・分析する
まとめ・表現	事例①	振り返りカードでまとめ・表現する
	事例②	保護者や地域社会などに向けた報告会でまとめ・表現する
	事例③	新聞でまとめ・表現する
	事例④	ICT を効果的に活用してまとめ・表現する
	事例⑤	パンフレットでまとめ・表現する
	事例⑥	ポスターセッションを行いまとめ・表現する
	事例⑦	パネルディスカッションを行いまとめ・表現する
	事例⑧	シンポジウムを企画しまとめ・表現する
	事例⑨	制作、ものづくりとしてまとめ・表現する
	事例⑩	総合表現としてまとめ・表現する
	事例⑪	社会への参画を通してまとめ・表現する
	事例⑫	レポートでまとめ・表現する
	事例⑬	作文でまとめ・表現する



【参考文献】

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)」(令和3年3月、文部科学省)

